



Gaumont presents

Le Diable probablement

A Film by Robert Bresson

Antoine Monnier Tina Irissari Henri de Maublanc Laëticia Carcano Nicolas Deguy Régis Hanrion
produced by Stéphane Tchaladjieff director of photography Pasqualino De Santis music by Philippe Sarde
directed and screenplay by Robert Bresson

ロベール・ブレッソン 監督

たぶん悪魔が

孤高の映画監督による幻の傑作、ついに日本初劇場公開。

た

ぶ

ん

悪

魔

が



Le Diable probable
死の誘惑にとりつかれて彷徨う若者が、
壊れゆく世界の果てで見つけたのは……
孤高の映像作家ロベール・ブレッソン美学の到達点、ついに日本初公開

『抵抗(レジスタンス)―死刑囚の手記より』(56)『スリ』(59)『やさしい女』(69)など知られるフランスの映画監督、ロベール・ブレッソン。プロの俳優をキャストティングせず素人を起用するなど、過度な演出を徹底的に排除して真実そのものを追求する映像表現(シネマトグラフ)を標榜。ゴダールらヌーヴェルヴァーグの作家たちをはじめ世界中の映画人に多大な影響を及ぼし、寡作ながら唯一無二の傑作を生み出してきた彼の、日本では特集上映などを除き劇場未公開だったふたつの作品『湖のランスロ』『たぶん悪魔が』が40年以上の時を経てついに公開。しかも両作とも最新の技術を駆使した4Kデジタルリマスターによって美しい映像が見事に甦る。

裕福な家柄の出でありながら自殺願望に取り憑かれている美しい青年シャルルは、政治集会や教会の討論会に顔を出しても違和感を抱くだけで何も解決しない。環境問題の専門家である親友のミシエルや、シャルルに寄り添おうとするふたりの女性、アルベルトとエドヴィージュらと同じ時間を共有しても死への衝

動を断ち切ることができない。冤罪で警察に連行されたシャルルは一層虚無に苛まれ、やがて銃を手にする……。自然破壊が進み、社会通念が激変しつつある1970年代のパリを舞台に、ひとりの若者の死と生を見つめる終末論的な本作。本国フランスでは18歳未満の鑑賞が禁じられたほどの絶望に満ちた内容、急進的な社会批判などが影響してか我が国では長らく日の目を見ることがなかったが、国際的には(シネマトグラフ)のひとつの到達点として高い評価を受け、その証拠に第27回ベルリン国際映画祭銀熊賞(審査員特別賞)を受賞している。深刻な社会不安、環境危機が叫ばれる今だからこそ観られるべき作品であると同時に、ブレッソンは普遍的な個人の危機を丹念に見つめる。もちろんキャストは非職業俳優でありながら、フランソワ・トリュフォーはこの作品を「すばらしく官能的」な作品であるとして、特にメイン4人の若者たちの美しさを称賛している。撮影は『ベニスに死す』(71)といったヴィスコンティ監督作や『湖のランスロ』『ラルジャン』(83)などのバスカリーノ・デ・サンティス。



Le diable probablement 監督・脚本・台詞:ロベール・ブレッソン 撮影:バスカリーノ・デ・サンティス
出演:アントワース・モニエ[シャルル] ティナ・イリサリ[アルベルト] アンリ・ド・モーブラン[ミシエル] レティシア・カルカノ[エドヴィージュ]
1977年 フランス カラー スタンダード 97分 配給:マーメイドフィルム/コピアポアフィルム 宣伝:VALERIA ©1977 GAUMONT

<https://lancelotakuma.jp>

『たぶん悪魔が』『湖のランスロ』同時公開!
3月11日[金]よりロードショー

お得な2作品セット特別鑑賞券¥2,200(税込)発売中!

★オリジナルポストカード2枚付(数量限定)



JR新宿駅東南口GAP並びNOWAビルB1F
新宿 シネマカリテ
03(3352)5645
<http://qualite.musashino-k.jp>
全席指定/入替制